

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-730	16-303	慶應義塾大学
<b>題名(原題/訳)</b>		
<p>Early changes in right ventricular longitudinal function in chronic asymptomatic alcoholics revealed by two-dimensional speckle tracking echocardiography.                      2次元スペックル追跡心エコー検査によって現される常習的無症候性アルコール依存患者における右心室縦機能の初期変化。</p>		
<b>執筆者</b>		
Meng S, Guo L, Li G.		
<b>掲載誌</b>		
Cardiovasc Ultrasound. 2016 Apr 19;14:16.		
<b>キーワード</b>		<b>PMID:</b>
アルコール依存症、右室機能、超音波検査		27094037
<b>要旨</b>		
<p><b>背景</b>                      心臓の心室機能不全は右心室(RV)の縦機能の低下として描写され、慢性のアルコール乱用にかかわる。本研究は、アルコール性心筋障害患者の縦の収縮期および拡張期の右心室機能を評価するために2次元スペックル追跡心エコー検査(2DSTE)で調査した。</p> <p><b>方法</b>                      我々は、92人の無症候性アルコール中毒の男性をアルコール摂取の多い3つの群(Group A-C)に、層化した。30人の年齢がマッチした正常な成人の男性は、対照群として用いられた。従来の超音波心臓検査と三尖弁輪収縮期収縮(TAPSE)パラメータの計測を施行した。2DSTEパラメータは、右室自由壁の先端4-室ビューから記録された。左室ピークの全体的な縦の収縮期性緊張は、3つの先端の長軸像断片の平均から算出された。</p> <p><b>結果</b>                      Group Cでは、右室拡張末期径(RVEDD)はGroup A、Bと制御のそれより劇的に高く、TAPSEは他の実験群と比較してGroup Cで有意により低かった。Group Bにおいて、右室自由壁の縦方向早期拡張歪速度(SRe)および後期拡張速度比(SRa)、ならびに、左室縦のストレインは、Group Aまたは対照のより有意に低かった。Group Cでは、すべての2DSTEパラメータは、他の群のそれより有意に低かった。有意な負の線形相関は、全体的な右室収縮期のパラメータ収縮期性ストレインピーク(S)、ピーク収縮期ストレイン速度(SR)とTAPSE(それぞれ <math>r1=-0.84</math>, <math>r2=-0.72</math> (<math>P &lt; 0.05</math>))の間に示された。</p> <p><b>結論:</b>                      二次元のSTEは、アルコール性心筋障害患者の右室縦の機能を評価するために、有効および非侵襲的方法を提供した。この方法は、診断、治療の方向付け、アルコール性心臓損傷の予後を判断することに有用であるかもしれない。</p>		